

授業科目                      介護実習 IB

【担当教員名】  渡邊 敏文 他		対象学年	1	対象学科	社会（介護福祉コース必修）	
		開講時期	後期	必修選択	選択	
		単位数	2	時間数	90	
【カリキュラムポリシーとの関連性】						
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現		
○	○	○	○	◎		
【概要・一般目標：G10】						
<p>・「生活援助技術」「介護総合演習 II」等で身に付けた技術をもとに、高齢者の要介護状態に応じて求められる介護技術の適正な用い方を理解する。</p> <p>・ 2・3月において2週間程度の期間で、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、訪問介護事業所で実習を行い、利用者の生活形態や家族との関係、及び他職種・他機関との関係について理解する。</p>						
【学習目標・行動目標：SBO】						
<p>1) 高齢者の要介護状態に応じた介護技術の適正な用い方と自立支援について理解し、実践できる。</p> <p>2) 利用者の生活形態、家族との関係、自立支援について理解する。</p> <p>3) 可能であれば、居宅サービスを調整するための保健医療福祉関係者の集まる会議に参加することにより、本人、家族、各専門職・専門機関との連携の重要性を理解できる。</p>						
回数	授業計画・学習の主題				SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	・実習は、2～3月に2週間程度で行う。					
2	・地域密着型の小規模多機能型居宅介護や認知症対応型老人共同生活介護等で実習を行い、高齢者の要介護状態に応じた介護技術の適正な用い方について学ぶ。					
3	・可能であれば、居宅サービスを調整するための保険医療福祉関係者の会議に参加する。					
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)						
参考書						
その他の資料		実習の手引き等				
【評価方法】 実習先での評価、実習ノート、レポート、実習報告等を総合的に評価する。			【履修上の留意点】			